

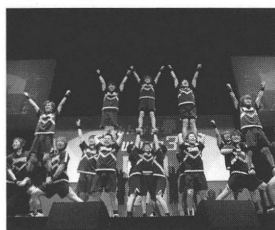
さあ、日本一の夢を見に行こう。 みんなの夢AWARD3

平成25年1月30日、日本武道館において、「みんなの夢AWARD3」が開催された。「これからの社会、これからの若者のために、みんなで夢を語り、みんなで支援するイベントを立ち上げたい」という思いをきっかけに、夢を抱く人々が、大勢の人前で未来の夢を語ることのできるステージとして用意されたのが「みんなの夢AWARD」である。

最終選考会の前に、学生と企業の交流会が行われ、総勢1,200名の学生と60社が参加した。ステージ上では、11の学生団体によるプレゼンテーション。



学生と企業の交流会



第2部オープニングアクト
Eager-Beaver

福祉・教育・環境活動など社会の中で真っすぐな気持ちで活動する学生の声が会場全体に響いた。

そしていよいよ、最終選考会がスタート。会場には日本一の夢の誕生を一目見ようと8,000人もの観客が訪れ、中でもアリーナ席は46の学生団体でいっぱい。オープニングの早稲田大学男子チアリーディングチームSHOCKERS（ショッカーズ）をはじめ、日本一の称号をもつ学生パフォーマーにより華やかに幕を開けた。

エントリー総数411名の中から最終選考に残った7名の夢アワードプレゼンテーションと、マイクロ・クレジットの開発などの貧困対策活動で2006年のノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏によるスペシャルトークなど

のあと、来場者の投票も含めた審査による各賞受賞者の発表と表彰があった。

ムハマド・ユヌス氏のスペシャルトークからは、利潤の最大化ではなく、社会問題の解決を最大の目的とし、資金を循環させる持続可能なビジネスモデルであることを特徴とするソーシャル・ビジネスについて、①人々の役に立つ身近な機会をきっかけとして、社会の何を変えたいのかというビジョンをもつ、②取り組むべき問題の本質を考え、それを自らの活動を通じて現場を知る、③先人たちの先行モデルを検証することの重要性が説かれた。「起業」というと、とかく壮大なもの、一定程度の資金に基づいたものを想像してしまいが、新たな何かをつくらずとも、すでに存在するソーシャル・キャピタルをつなぐことによって、社会を変えるような「起業」が可能であることを教わった。



プレゼンテーションを
する垣内さん

7名のプレゼンテーションは、①障がい者だけでなく、健常者も利用したくなるような新しい移動ツールによる「カッコいい移動手段」の提案、②貧困問題と環境問題の解決を目指したザンビアでの「バナナベーパー」の製造、③石巻市の高校生たちによる地元食材を使い、石巻の魅力を伝え、地元でのつながりの場をつくるカフェの運営、④児童養護施設を退所後、大学等へ進学する若者を「資金」と「意欲」の二つの面から卒業までをサポートする取り組み、⑤デザインを通じてアジアの途上国の女性たちの自己実現と経済的自立を目指す取り組み、⑥農業インターンシップを基盤にした若者に働く意義や夢を育む取り組み、⑦障がいのある学生への教育や勤労支援など、当事者視点で差異・障がい・能力を問わずに利用できる施設や製品を提供するユニバーサルデザインへの取り組みに関わるもので、「どのような思いをもって、誰（何）のために、どのように実現させるのか」について、それぞれの取り組みの熱意と方法論が述べられた。

審査、投票の結果、みごとアワードに輝いたのは、当事者視点でユニバーサルデザインに取り組む垣内俊哉さん。これからさらなる夢の実現に向けて加速していくことだろう。

現代人に突きつけられたさまざまな問題に主体的に関与し、問題解決のため設定した課題に情熱をもって取り組む方々が発する言葉は、前向きで温かい言葉にあふれ、「世のため人のため」という言葉がなかなか聞かれなかった昨今、7名の方々の高い志は強いエネルギーをもって日本武道館を包み込んでいた。「みんなの夢AWARD3」は、一人の夢がより多くの人々の共感を得て「みんなの夢」となることを実感したひとときであった。

エンディングは中央大学応援団によるエールで、若者の熱気とともに夢の祭典は幕を閉じた。（私大連盟事務局）

村上 宏之 (むらかみ ひろゆき)



松山大学 理事長・学長

森本三義前理事長・学長の任期満了に伴い、一月一日付で村上宏之経営学部教授が理事長・学長に就任した。任期は二〇一三年十二月三十一日までの二年間。

村上宏之新理事長・学長は一九五六年広島県生まれ。一九七八年三月香川大学経済学部卒業、一九七九年三月香川大学経済学専攻科卒業、一九八一年三月神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了、一九八四年神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程単位取得退学。一九八四年四月松山商科大学(現・松山大学)経営学部専任講師、一九八六年四月同経営学部助教授を経て、一九九三

年松山大学経営学部教授。一九九八年八月から二〇〇〇年十二月まで松山大学総合研究所次長(現・副所長)、二〇〇一年一月から二〇〇五年一月まで松山大学経営学部長などを歴任して現職に至る。

専門分野は会計学(財務会計)。「ファイナンス型会計の探求」「中小企業の計算公開と監査」などを分担執筆。日本会計研究学会、日本簿記学会、日本税務会計研究学会に所属している。

本学は、今年創立九十周年を迎えるが、創立九十周年は次の百周年以降の通過点であると考えている。校訓「三実」の教育理念に立ち、五十年後、百年後も、地域における高等教育の拠点として人材を育成する場であり、研究の拠点として情報を発信し続ける大学、このことを通して地域の内外に安心感を与え、信頼される大学にしたいと考えている。具体的な取り組みについては、持続可能性を確保するために財政基盤の安定・強化、教育サービスの質の向上を図るために各教員の創意工夫の奨励や「知」の情報発信の強化などを図っていきたいと考えている。

●連盟ニュース

日本私立大学連盟 各委員会における研究成果

私大連盟では平成二十五年三月、以下の報告書をとりました。

- ①『「大学ポートレート」と「大学改革実行プラン」教育情報の公表をめぐる検討経過報告』(教育研究委員会大学教育の質向上検討分科会)
- ②『奨学金等分科会報告書』(学生委員会奨学金等分科会)
- ③『グローバル・キャンパスの実現を目指して』(国際連携委員会)
- ④『学校法人における戦略的な寄付募集事業推進のために(中間まとめ)』(経営委員会)
- ⑤『事業報告書の意義とWEBの活用に関する提言―財務・経営情報の公開に関する財政政策委員会報告』(財政政策委員会)

いずれも会員法人(加盟大学)の諸改革の一助となることを願って、私大連盟の会員法人(加盟大学)に調査やアンケートにご協力をお願いするなどした結果などに基づき、平成二十四年度における各事業組織における検討成果としてとりまとめたものです。本連盟ウェブサイトに「会員専用ページ」にて閲覧可能とする予定です。

大学時報・年間総目次

第三四四号 (二〇二二年五月) ～第三四九号 (二〇二三年三月)

第三四四号(二〇二二・五)

巻頭言 異文化理解をめぐる 竹村牧男

巻頭論文 大学教育の質保証雑感 滝澤 正

座談会 なでしこ戦略——女子大学の活性化に向けて

堀 雅裕／斎藤宏充／井原 徹／金子 博

／(司会) 兼高聖雄

学生団体の現状と対応——慶應義塾大学の状況

伊東裕司

学校法人格付を再考する——私立大学に信用

格付は不要か 殿村成信

私大連盟アドミニストレーター研修最終レポート

「所属大学の改善提案」の採択にあたって

大島英穂

次代へつなぐ教育機関であるために

——教育費の家計負担軽減と教育環境改

善の提案 大槻行徳

特集 東日本大震災から一年、大学は変わったのか——今あらためて問う大学の使命

大震災を振り返る——今後の復興への寄与

を視野に 星宮 望

被災地への息の長い支援を目指して——岩

手県陸前高田市と立教大学の連携及び交

流に関する協定締結 西田邦昭

大学と社会との新しい往還、教員・職員・

学生の新しい関係 野宮大志郎

「人間復興」を目指す現研融合の試みこそ

原点——若者の正義を生かす大学とは

山中茂樹

大学における事業継続性の確保——情報シ

ステムのための事業継続対策の事例

金子康樹

明日への試み

城西国際大学看護学部

これからの社会を見据えた看護師の養成

飯田加奈恵

小特集 教育支援システムの現在

スマートフォン導入による教育環境改善

宮治 裕

全学連携学生支援とICTの活用

遠山克美

入学前学習における学習管理システムの利

用——基礎学力の向上を目指して

内田晴久

ずいそう

二〇二二年は国際協同組合年です

岩本 繁

わが街——大学のある風景

「公園都市」有明——臨海副都心の現在と

武蔵野大学の未来 東京都江東区有明

中村孝文

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学

の歴史

揺籃、充実、新生——大学史の三つの画期

市原靖久

加盟校の幸福度ランキングアップへキャリア

支援編

日本一の社会人基礎力、浮田ゼミ 経済産

業大臣賞を受賞・福岡女学院大学

福岡女学院大学戦略広報課

就職キャリア支援体制・明治大学

高瀬 功

ヘボン・キャリア・プロジェクト・明治学

院大学 佐藤 純

クローズアップ・インタビュー

落語家 三遊亭鬼丸氏に聞く

(聞き手) 宮田英里

新会員代表者紹介

仙波憲一(青山学院)

日比谷潤子（国際基督教大学）

鵜殿博喜（明治学院）

永田見生（久留米大学）

新学長紹介

福宮賢一（明治大学）

新加盟会員大学・代表者紹介

阪南大学

辰巳浅嗣（阪南大学）

和光大学

伊東達夫（和光大学）

大学点描 東洋大学

だいがくのたから 立命館大学

第三四五号（二〇一一・七）

巻頭言 私立大学の使命

赤井益久

巻頭論文 大学の社会貢献

明石吉三

座談会 知識基盤社会を担う人材の育成・輩出を目指して

鈴木寛／佐々木雄太／清家篤／（司会）

飯野正子

わが国の持続的発展を支える人材の養成

——国家戦略会議における民間議員の意見を受けて

見を受けて

納谷廣美

秋季入学への移行の議論が拓くもの——私大

連盟アンケートの結果から

吉岡知哉

秋季入学制度——歴史の中から何が見えてく

るか

寺崎昌男

特集 倫理憲章の改定を受けて——学生と大学の傾向と対策

倫理憲章改定（広報活動の短縮化）の影響

小島貴子

試行錯誤の一年——重要な十月・十一月の準備

土屋明生

倫理憲章改定による就職活動の変化

勅使川原秀樹

倫理憲章改定を受けての動向と就職支援

後藤正己

調査結果で見る採用広報期間短縮の影響

栗原博之

私大連盟加盟校から見た倫理憲章改定の考察

吉原健二

小特集 外部資金獲得に向けた体制づくり

研究活動の活性化と外部資金の獲得

大城光正

戦略的な研究支援の重要性——個人技から組織的な支援へ

川畑一成

「チャレンジSIT-90」作戦と競争的資金の獲得

村上雅人

ずいそう

囲碁

日高憲三

わが街——大学のある風景

運河の水面に「国際交流」の歴史風景が浮かぶ——名古屋市中村区・中川区

神谷 智

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学

の歴史

「自重互敬」の精神で

松尾美恵子

加盟校の幸福度ランキングアップ《学生食堂編》

ランチタイムに喜びを・東洋大学

葉内 孝

大学食堂リニューアルプロジェクト・東洋

英和女学院大学

雨宮美和子

クローズアップ・インタビュ

フリースアウンサー・日本大学芸術学部特

任教授 近藤サトさんに聞く

（聞き手） 宮田英里

新会員代表者紹介

棟方信彦（松山東雲学園）

犬井 正（獨協大学）

秋岡 陽（フェリス女学院大学）

西間三馨（福岡女学院看護大学）

川島堅二（恵泉女学園大学）

杉村芳美（甲南大学）

村上雅人（芝浦工業大学）

石出信正（仙台白百合女子大学）

大学点描 國學院大学

だいがくのたから 松山大学

第三四六号（二〇一二・九）

巻頭言 大学グローバル化の一面 柳澤伯夫

巻頭論文 大学教育と運営 仙波憲一

座談会 産学官連携のこれから

安西祐一郎／佐藤文一／山本佳世子／渡辺

公三／(司会) 小林伸生

国際バカロレアがもたらす「衝撃」

渡辺敦司

被災地の人材育成・地域貢献を目指して

——東日本大震災の被災地におけるシン

ポジウム二〇一二参加報告

大日方聖信

特集 著作権法と大学教育における著作物利

用

平成二十四年著作権法改正と大学への影響

北澤尚登

映像の教育利用とアーカイブの法的問題

河井理穂子

著作権法改正と教材作成

内田弘二

大学図書館におけるデジタル化と著作権

——慶應義塾大学における取り組み

岡野純子

学生への著作権の指導

一般社団法人コンピュータソフトウェア

著作権協会

明日への試み

東海大学生物学部

生物学の時代と学部改革

竹中 践

小特集 私立大学を支える寄付文化の拡充

大学法人における寄付募集の現状と今後の

発展に向けて 八木晶代

学生支援のための恒常的募金活動

野本 繁

インターネット寄付金収納システム導入の

ススめ——鉄は熱いうちに

キュリオワークス(株)事業推進室

ずいそう

あきらめない心

河本伸二郎

わが街——大学のある風景

「山行き」の地から「学び」の地へ——名

古屋市昭和区

加藤恭輔

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学

の歴史

昭和二十年の大学史——神宮皇學館大學の

廃学

渡辺 寛

加盟校の幸福度ランキングアップ《Facebook

編》

フェイスブックで築く「絆」の広がり・関

西学院大学

井上美香

地域社会との接点をつくり、学生を含めた

大学全体の「発信力」を高める・敬和学

園大学 一戸信哉

クロースアップ・インタビュー

野球解説者・評論家 小宮山 悟氏に聞く

(聞き手) 宮田英里

新会員代表者紹介

坂井東洋男(追手門学院)

町田 睿(東北公益文科大学)

新学長紹介

山崎純一(東邦大学)

大学点描 城西国際大学

だいがくのたから 追手門学院大学

第三四七号(1011・11)

巻頭言 協働・共創時代を目指す「人間教

育」

巻頭論文 大学の原点に帰ろう

山崎和海

座談会 私大連盟加盟大学の協働が支える高

等教育の未来

菊池克仁／三谷靖司／藤本英城／塩田邦成

／(司会) 山下隆一

寄付を取り巻く諸環境の変化と私立大学にお

ける寄付金政策

私立大学フォーラム——平成二十四年度前期

総括 広報・情報部門会議(フォーラム)

特集 医学教育の未来を考える

医学教育改革の現状と課題

「地域の医師確保対策二〇一二」について

——医師のキャリア形成と社会構造の変

化に対応した医師養成・確保の推進

文部科学省高等教育局医学教育課

医学部のない総合大学が変容する瞬間

医・理・工融合研究を通じての人材育成

鈴木 寿

鈴木 寿

—TWInsを拠点に
明日への試み
内藤 均

梅花女子大学食文化学部
食の都大阪にふさわしい食文化学部の設置
——「食」の実践と理論を兼ね備えたプロを目指す
関野章代

小特集 大学とSNS——課題と可能性
情報発信の自覚と責任を学ぶ場を
藤代裕之

ソーシャルメディアリスク管理が必要不可欠
産学連携コンソーシアムによるソーシャルメディア系専門家育成プログラムの共同研究開発
玉木欽也

SNS導入で大学は何をすべきか
柳沢富夫

ずいそう
五十五歳からの手習い
わが街——大学のある風景
青本健作

大学と地域との連携による新しい熱田のまちづくり——名古屋市熱田区 水野晶夫
わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

歴史と伝統に戻りつつ、新体制を考える
長尾ひろみ

加盟校の幸福度ランキングアップ《父母会編》

父母会活動の成否は大学の総合力にあり・

関西大学
父母力(育友会)が大学をサポート・専修大学
横山博行
庄 菊博

クローズアップ・インタビュー
映像プロデューサー 橋本佳子さんに聞く(聞き手) 宮田英里

新会員代表者紹介

池島政広(亜細亜学園)
稲垣隆司(名古屋学院大学)

大学点描 立正大学
だいがくのたから 龍谷大学

第三四八号(2013・1)

巻頭言 多様性と教育
伊東達夫

年頭所感 私立大学の存在意義
清家 篤

座談会 「魅力」ある私立大学を目指して
坂井東洋男/日高義博/鎌田 薫/横山晋一郎/(司会) 仙波憲一

総合大学における教員養成に求めたいこと
——センター方式と科学技術の視点から
相吉英太郎

私立大学フォーラム——平成二十四年度後期
総括 広報・情報部門会議(フォーラム)

特集 障がいのある学生の修学支援の創造
大学における障害学生支援の現状と合理的配慮提供に向けての今後の課題——障害者権利条約批准に向けての近年の動きか

現場の声から全学組織へ——立教大学身体しよがいしゃ(学生・教職員)支援ネットワーク
原 修
そでてる、つながる、ひろがる 田鍋耕三
発達障害のある学生の特性とその支援
——より豊かで確かな学びを目指して
徳永 豊
アメリカの事情と日本の政策動向
三原 岳

小特集 学園祭の受験生獲得企画
来たれ受験生! 学園祭で志願者「獲得」
大木由美子

学園祭での学生による受験生向け学校紹介企画——上智大学「ソフィア祭」からの報告
東郷公徳

オープンキャンパスの目標と工夫——聖心祭同時開催オープンキャンパスの取り組みを通して
坂本 明

ずいそう
事務職員像今昔
わが街——大学のある風景
池内啓三

街道と文化の残る街——名古屋市天白区
わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史
柏原正則

七年制高等学校の開設と臨時教育会議
旧制武蔵高等学校の歴史を振り返り

て

清水 敦
加盟校の幸福度ランキングアップ《マスコ
トキャラクター編》

元氣ではつらつとした大学の人気者・同志
社女子大学 森田良平

マスコトキャラクターによる成果・龍谷
大学 龍谷大学学長室（広報）

マスコトに一線画すスピリッツキャラ・
東京経済大学 森 玲子

クローズアップ・インタビュ
（株）ナビタイムジャパン代表取締役社長 大
西啓介氏に聞く（聞き手）宮田英里

北岡伸一（国際大学）
国枝マリ（津田塾大学）

大学点描 和光大学

だいがくのたから 立教大学

第三四九号（10・11・12）

巻頭言 学院創立百五十周年を迎えて

巻頭論文 昨今の教育改革論議に寄せて 鶴殿博喜

座談会 体育会学生の大学生活・就職活動支
援のあり方 亀嶋庸一

安田和広／大山賢一／土屋明生／山崎秀人

／（司会）小林伸生

クォーター制の導入が意味するもの——早稲
田大学における新たな試み 田中愛治
大学におけるメンタルヘルス対策の取り組み
——「三つの予防」を推進

（株）アドバンテッジリスクマネジメント

特集 大学教育の質的転換に向けて——P
Lの有効性について

「主体性」を身につける——PBLの有効
性と課題 安西祐一郎

企業と大学が協同し、学びに関わることで
学生の主体性は引き出されたか

——「Future Skills Project」の取り組
み 東山高久

PBLの学びを最大値にするために——同
志社大学プロジェクト科目の場合に即し
て 山田和人

CPATS 能力開発のためのPBL+SD
L型学修への転換——知識偏重教育から
能力開発学修への転換を目指して 芦原直哉

明日への試み

京都橘大学健康科学部

「いこうとからだ」を学び、かわり、
「共生」へ 日比野英子

小特集 大学職員のグローバル化に向けて
大学職員のグローバル化に向けて何が必要
か 本間政雄

グローバル化と大学職員——国際基督教大

学における事例 岸本 誠／島崎弓子
グローバルユニバーシティを見据えて
内田則之／小山悠貴

ずいそう

宗門が社会に捧げた大学
わが街——大学のある風景 里雄康意

学園都市八王子——東京都八王子市
高橋敏夫

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学
の歴史

近代歯科医学教育を拓く 金子 譲
加盟校の幸福度ランキングアップ《マスコ
トキャラクター編》

気がつけば人気者のジョガクインコちゃん
・広島女学院大学 榎 良平

こくぴんともっと日本をもっと世界へ
・國學院大学 白川博一

愛くるしさが大人気 体育会のキャラクタ
ーをデフォルメ・専修大学

専修大学総合企画広報室広報課
クローズアップ・インタビュ

ワタミグループ創業者 渡邊美樹氏に聞
く（聞き手）宮田英里

新会員代表者紹介
村上宏之（松山大学）

大学点描 明治学院大学

だいがくのたから 日本大学

連盟ニュース

●私大連盟「第二回学長会議」開催

平成二十五年一月二十二日、アルカディア市ケ谷にて「平成二十四年度第二回学長会議」を開催。文部科学省がまとめた「大学改革実行プラン」における大学の機能の再構築に係る四つの課題を討議の柱に据え、自律性をもって多様な大学像を考察する機会の一助とすべく開催し、七十六大学七十七名が参加した。

●私大連盟「国の補助金等に関する協議会（第二回）」開催

平成二十五年二月二十八日フクラシア東京ステーションにおいて「平成二十四年度国の補助金等に関する協議会」を開催。文部科学省より政府予算案等について説明があったほか、大学の事例報告等が行われたなどし、八十八の加盟大学などより百八十六名の教職員が参加した。

●私大連盟「学生支援研究会」開催

私大連盟学生委員会では、平成二十五年三月七日～八日、京都東急ホテルにおいて「学生支援研究会」を開催。「社会の接合と連携」の中で

の大学の役割と学生の自律支援」とするテーマのもと、四十六大学より百七名の教職員が参加した。

●企画案・「意見」感想の募集

広報・情報部門会議（大学時報）では、購読者のニーズにより合致した情報を提供するため、企画案・ご意見ご感想を随時募集しております。企画案は、同会議で検討させていただきますので、企画をご提案いただく際は、過去の企画記事をご参照いただき、執筆者数、記事数、ページ数などの制約をご理解のうえ、お送りください。①募集内容…企画案（テーマと主旨）、ご意見ご感想、②書式…自由（A4一枚程度）、③提出先…daigakuinfo@shidaren.or.jp④その他…連絡先（お名前、大学名等）を明記ください。

お知らせ

本誌「大学時報」は、平成二十四年度から日本私立大学連盟のウェブサイトで本文を閲覧できるようにになりました。詳細は、<http://www.shidaren.or.jp/activities/daigakuinfo>をご覧ください。

編集後記

□変化の激しい社会情勢下、既存の知識、過去の成功体験知は、どんどん陳腐化してしまう。したがって、生涯にわたって主体的に学び続ける力というものが必要となり、そのような力をつけるためにPBLが有効な学習方法の一つとして注目されている。現在、各大学では各々のネットワークを生かしたさまざまな形態のPBLが展開されているが、代表的な取り組みから学ぶことを通じて、大学教育の「質的転換」を図っていく上での参考にしようというのが今次特集の趣旨である。日本の若者は、自ら問題を発見し、他者と協力しながら問題を解決していく力が弱いと言われている。私見ではあるが、IBコースで学んでいる高校生を見るかぎりにおいて、そのような能力を醸成してこなかった従来の教育方法にも責任があるのではないかと感じている。大学教育の転換期の職員として果たすべき役割を全うしていきたいと思う。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・立命館大学総合企画部広報課長 大場 茂生）

□「体育会学生の大学生活・就職活動支援のあり方」をテーマに座談会を開催した。スポーツで鍛えられた精神力やチームワーク力、社会人として活躍する上で必要とされる基礎能力。体育会学生が社会へ出てからも高いパフォーマンスが発揮できるよう、各部活動と就職担当部署などの連携による新たなキャリア形成支援が必要とされている。厳しい練習や試合を通じて心身共に鍛えられた自信を胸に、社会へ羽ばたいてほしい。今号の表紙絵のテーマは「窓」。

入学や卒業の季節。楽しかったこと、つらかったこと、いろいろな思い出を胸に、大きく窓を開け、新しい世界へ羽ばたいてほしい。同窓というご縁で、二年間表紙絵をご提供くださった岩元忠雄氏に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。（日本私立大学連盟事務局 秋濱 里佳）

●お詫びと訂正

【大学時報】（平成25年1月号）小特集「来たれ受験生！ 学園祭で志願者「獲得」」（前号57頁上段6行目）において、明治大学の所在地を「東京・杉並」と掲載すべきところ誤って「東京・世田谷」と掲載いたしました。お詫びして訂正いたします。

(大学名A B C順)
|は同一学校法人

(124大学 平成25年3月20日現在)

[illegible]

大學時報 3月号

第62卷349号（通巻363号）
平成25年3月20日発行

編 集 人 音 好 宏 (上智大学文学部教授)

發行人 仙波 憲一 (青山学院大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

電話 03-3262-3603 FAX 03-3262-3604

<http://www.shidairen.or.jp>

印刷所 凸版印刷株式会社

〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3

佐藤	賢治	(中大大學務支援室係長)
大井	香名子	(同志社大學企画部広報室広報課)
小野	聖信	(上智大學學術情報部長)
小栗	平	(関西大学広報室広報課)
赤木	伸	(関西学院大學經濟学部教授)
高村	聖雄	(慶應義塾大學法學部教授)
大場	麗雄	(日本義塾大學学部教授)
大月	健太	(立教大學學生部學生厚生課)
秋田	生	(立命館大學総合企画部広報課)
	陽子	(早稲田大學広報室広報課主任)
	濱里	(日本私立大学連盟事務局)

